

Sara Davis Buechner Piano Recital

サラ・デイヴィス・ビュクナー ピアノリサイタル

モーツァルトからショパンへ。ピアノ音楽が「劇」を手に入れていく、その軌跡を聴く。
今年1月、東京で圧倒的な存在感を示したサラ・デイヴィス・ビュクナーが、待望の再登場。
劇性がつながり、古典派とロマン派の軌跡

2026.12.28 mon
open 18:30 start 19:00
ヤマハホール

モーツァルト：幻想曲とソナタ 八短調 K.475/457

ウェーバー：ピアノ・ソナタ第1番 八長調 Op.24

ウェーバー：ピアノ・ソナタ第2番 変イ長調 Op.39

ショパン：ピアノ・ソナタ第3番 口短調 Op.58

全席指定

前売：6,000円／学生：3,000円
当日：6,500円／学生：3,500円

お問い合わせ先でのご予約に限り、
5月末までのお申し込みで前売価格より500円引
早割：5,500円／学生：2,500円

チケット詳細・ご購入

e+ (イープラス) / TEKET / メール申込



【主催・お問合せ】みのりの眼
<https://minorinome.com>
【協力】Sakuraphon



Sara Davis Buechner Piano Recital

サラ・デイヴィス・ビュクナー ピアノリサイタル

今年1月、東京でのソロリサイタルで聴衆に鮮烈な印象を残したピアニスト、サラ・デイヴィス・ビュクナー。その待望の再登場となる今回の舞台は、銀座ヤマハホールです。

モーツァルト、ウェーバー、ショパン——今回のプログラムは、3人の作曲家を通して、ピアノ音楽がより豊かに、よりドラマティックに花開いていく流れをたどる、魅力あふれる内容です。静けさの中に揺れる心の陰影、さらびやかな技巧、そして深く大きな音楽のうねり。それぞれの作品が異なる表情を見せながら、一つの物語のように響き合っていきます。

なかでもウェーバーのピアノ・ソナタは、演奏機会の少ない貴重な作品です。華やかで劇的な魅力に満ち、ショパンへとつながる新しい時代の息吹を感じさせてくれることでしょう。そして最後に置かれたショパン《ピアノ・ソナタ第3番》は、詩情と力強さをあわせ持つ壮麗な傑作。この日の締めくりにふさわしい、圧倒的な存在感を放ちます。

卓越した技巧と豊かな表現力を兼ね備えたサラ・デイヴィス・ビュクナーだからこそ実現できる、特別で華やかな一夜です。

サラ・デイヴィス・ビュクナー (ピアノ)

Sara Davis Buechner

サラ・デイヴィス・ビュクナーは、1959年生まれ。ニューヨーク・タイムズ紙に「知性と誠実さ、圧倒的な技術を兼ね備えた音楽家」と評される世界的ピアニストです。1984年ジーナ・バッカウアー国際ピアノコンクール優勝、1986年チャイコフスキー国際コンクール銅メダルをはじめ、エリザベト、リーズ、シドニーなど数々の国際コンクールで受賞を重ね、国際的な評価を確立しました。これまでにニューヨーク・フィル、フィラデルフィア管、クリーヴランド管、BBCフィルをはじめとする名だたるオーケストラと125曲以上の協奏曲を共演。カーネギーホールやリンカーンセンターをはじめ、世界各地の舞台上で圧倒的な存在感を示してきました。

録音活動においても評価は高く、ブゾニ編曲による《ゴルトベルク変奏曲》世界初録音はニューヨーク・タイムズ紙で大きく取り上げられ、アメリカ音楽の録音では数々の賞を受賞。近年では2025年、マルタ・アルゲリッチに招かれ、ハンブルクのアルゲリッチ・フェスティバルに出演・共演を果たし、その国際的な活躍ぶりをあらためて示しました。教育者としても世界的に活動しており、ジュリアード音楽院、王立音楽院などでマスタークラスを行い、テンプル大学教授、現在はカナダのブリティッシュ・コロンビア大学准教授として後進を指導。多くの学生たちを国際舞台へと送り出しています。

また、彼女は現代を代表するトランスジェンダー音楽家としても注目され、多様性と包摂の象徴として幅広い社会的意義を担っています。その歩みは国際的なメディアでも紹介され、クラシック音楽界における新しいロールモデルとなっています。日本文化への愛情も深く、1986年のチャイコフスキー国際コンクールでヤマハのピアノを使用したことをきっかけに日本各地を巡演。以来、親日家として阪神タイガースの名誉メンバーに任命されるなどユニークな交流を築いてきました。

比類なき演奏力と人間的魅力を兼ね備えたビュクナーは、世界が認める巨匠であると同時に、21世紀の文化的対話を体現する存在です。

